

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名：一般国道8号 <small>にゅうぜんくろべ</small> 入善黒部バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：富山県下新川郡入善町 <small>しもにかわ にゅうぜんまちくぬぎやま</small> 山 至：富山県魚津市 <small>うおづ えぐち</small> 江口	延長	16.1km
事業概要 一般国道8号入善黒部バイパスは、交通渋滞の緩和、広域幹線ネットワーク充実強化などを目的とした延長16.1kmのバイパス事業である。		
H2年度事業化	H2年度都市計画決定	H5年度用地着手
全体事業費	約917億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)
		80%
		供用済延長
		14.0km (暫定2車線)
計画交通量	18,600～38,400台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.1
	(残事業)	3.5
総費用	(残事業)/(事業全体)	212/1,410億円
総便益	(残事業)/(事業全体)	742/1,563億円
	(事業費)	146/1,268億円
	維持管理費	67/142億円
	(残事業)	662/1,286億円
	(事業費)	59/221億円
	(残事業)	21/56億円
	(事業費)	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.001～1.2(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.1～3.8(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.1(事業費±10%) 事業費：B/C=3.3～3.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.3～3.6(事業期間±20%)		
事業の効果等 ①国際拠点港湾（伏木富山港）へのアクセス向上 ・入善町や黒部市の工業団地から伏木富山港へのアクセス向上が期待される。 ②地域産業の活性化・物流効率化 ・事業区間周辺には富山県の主要産業であるアルミ製造業の拠点が立地しており、バイパス沿線に企業団地が立地するなど、地域産業の活性化・物流効率化により生産性向上に寄与することが期待される。 ③救急医療施設へのアクセス向上 ・救急医療施設（黒部市民病院）への搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与することが期待される。 ④夜間騒音の低減 ・入善黒部バイパスの整備により、旧国道8号（県道魚津入善線）の交通量が減少するため、夜間の交通騒音が低減し、沿道環境の改善が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見： 魚津市などの3市2町の首長で構成される朝日滑川間国道・バイパス建設促進期成同盟会等より整備の要望を受けている。 知事の意見： 事業継続に同意する。なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 前回事業再評価時以降、需要の見込みや地元情勢など社会情勢に大きな変化は無い。		

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：事業進捗率80%、用地進捗率99%（令和2年3月末時点）
- ・残事業の内容：用地取得、道路設計、改良工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・現道拡幅区間である入善町栲山～入善町上野間の用地取得、道路設計、改良工事を推進し、早期4車線供用を目指して整備を進める。
- ・バイパス区間の4車線整備については、交通状況を勘案しつつ、整備時期等を検討する。

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の有効活用や新技術の積極的な活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。